

衆議院

衆議院

[メインへスキップ](#)

[サイトマップ](#)

[ヘルプ](#)

[音声読み上げ音声読み上げアイコン](#)

[サイト内検索](#)

本会議・委員会等

[立法情報](#)

[議員情報](#)

[国会関係資料](#)

[各種手続](#)

[English](#)

[衆議院トップページ](#) >

[立法情報](#) >

[会議録](#) >

[予算委員会](#) >

[第 192 回国会 予算委員会 第 2 号 \(平成 28 年 9 月 30 日 \(金曜日\)\)](#)

第 2 号 平成 28 年 9 月 30 日 (金曜日)

[会議録本文へ](#)

平成二十八年九月三十日 (金曜日)

午前八時五十九分開議

めの検討会を設置いたしました。ここにおきまして、ホームドア整備の加速化、また、視覚障害者への声かけ、誘導案内の強化など、ハード、ソフト両面からの転落防止対策の強化を検討してまいりたいと思っております。

また、ホームドアの整備の推進とあわせまして、今御指摘がございました、内方線つき点状ブロックというふうに申しますが、この設置も有効な対策の一つというふうに考えております。

平成二十三年八月のホームドアの整備促進等に関する検討会の中間取りまとめにおきまして、利用者一万人以上の駅については、内方線つき点状ブロックの整備を可能な限り速やかに実施することとしておりまして、現在、六三%まで整備が進んでございます。

国土交通省としましては、引き続き必要な支援を行うことによりまして、この内方線つき点状ブロックの整備を推進するとともに、先ほど申し上げました検討会において、この内方線つき点状ブロックの整備のあり方についてさらに検討を深めていきたいと思っております。

○石田（祝）委員　もう二度とあのような痛ましい事故が起きないように、ぜひ整備を促進していただきたいというふうに思います。

それと同時に、目の不自由な方に対して、例えば白杖、白いつえを持っている方とか、やはり我々もそういう方々を意識して、ちょっと危ないなと思ったら声をかけてあげるとか、そういうふうにしなないと。我々としてもそういう方々に対する思いも持っていかなきゃいけないな、こういうこともあわせて思っております。

それから、引き続いて鉄道駅のバリアフリーについてお伺いしたいんです。

私も四国でいろいろな方にお会いをするときに、自分の住んでいるところの駅に、特急もとまるんだけれどもエレベーターがないと。三千人という基準があるように聞いていますけれども、だんだんと高齢化が進んでまいります。そうすると、ますます車というよりもやはり鉄道ということにもなりかねないし、今まで以上に利用者がふえるということもこれはなかなか考えにくい。

そういう中で、やはりバリアフリーという観点から、鉄道の駅のエレベーターの設置、これについて、基準はあったとしても、特急が停車するとか、そういう結節点になっているような駅は私はぜひ整備をしていただきたいんですが、これについて国土交通大臣の御答

弁をお願いします。

○石井国務大臣 国土交通省といたしましては、バリアフリー法の基本方針に基づきまして、平成三十二年度までに、利用者数が一日当たり三千人以上の全ての駅にエレベーター等を設置することを優先して取り組んでおります。

一方、委員御指摘のとおり、利用者数が三千人未満でありましても、公共施設や病院や福祉施設などが周辺に所在する駅や、また観光の拠点となっている駅につきましては、三千人以上の駅と同様にバリアフリー化の必要性が高い駅と考えておりまして、今申し上げました基本方針におきましても、地域の実情に鑑み、高齢者、障害者等の利用の実態等を踏まえて、可能な限りバリアフリー化するというふうに行っているところでございます。

今後とも、この基本方針に基づきまして、鉄道駅のバリアフリー化の取り組みを着実に進めていきたいと考えております。

○石田（祝）委員 ぜひよろしくお願いをいたしたいと思っております。

もう時間がなくなりましたので、最後になろうかと思っておりますけれども、災害対策についてお伺いをいたしたいというふうに思います。

総理も本会議で御答弁があったと思っておりますけれども、今回の水害で、岩手県の岩泉町ですか、そこの高齢者グループホームの楽ん楽んというところで九人の方が亡くなった。ホームには、いわゆる避難準備情報というのが行っておったんだけど、それが意味するところは何なのか、そこのとこちのちょっと受けとめ方が違っておったのではないかということも言われております。

ですから、私がよく思うのは、役所から例えば発信をするときのその中身の問題と、受けとめる側がどうそれを理解して行動するのか、ここのとこちでいわゆる認識のギャップ、これがややもするとあるのではないか。正確に発信したつもりだけれども、受けとめる方は全然違う受けとめ方をしていた。

これについては総理も、この言葉も考えていかなきゃいけない、こういう御答弁もあつたようであります。これについて、総理が御答弁なさったすぐ後ですから、今固まっていないかもしれませんが、どういってお考えなのか、お聞きしたいと思います。

○安倍内閣総理大臣 国民の生命を自然災害から守るためには、情報を受け取った住民の